

いきいき通信

vol. 2

REPORT

わたしの来た道、そして今 ～メッセージと写真展～

10月15日(土)～10月31日(月)

当センターは地域の方々、特に高齢者との交流を活性化し、地域の中での支え合いを生みたいと思っています。そこで交流のきっかけとして、高齢者の方を中心に、これまでの人生の歩みや未来への想いを伺いました。



多くの方から伺った貴重なお話を短くまとめ、ご本人の肖像写真とあわせて、10月15日から31日まで展示会を開催しました。展示会初日にはお話を伺った方をお迎えし、それぞれの方の展示をまとめた冊子と、お話を聞いた者からのお礼文をお渡ししました。まとめられた言葉からは、それぞれの想いや人生がにじんでおり、特に人生の先輩方の言葉には、心を揺さぶられるものがあります。その人のことは直接知らなくても心の距離は狭まったような、多くの方がそんな感覚を抱き、その想いを共有できた展示会になりました。

● 展示会でのアンケートより ●

私より先輩の重みのあるメッセージに感動しました。身近に色々な体験をした人がいることに、少々驚きもし、自分の若輩も感じます。

元気をもらいました！！
ありがとうございました。

ハツラツとしたお姿がうつされた写真にまず感動しました！そして年齢を重ねられた言葉の一つ一つを聞き取られたスタッフの皆さまの暖かさ…感動です。

老若男女、いろいろな方の聞き取り。文章も写真も個性が表現されていました。こういう手法が広がってこの地域に根づいていけばと願っています。

展示されたインタビュー記事と写真を、一部ご紹介します!!

日本がなぜ、あんなひどい戦争をしたのか、ずいぶん勉強しました。(田代辰盛さん 83歳)

戦時中は苦しかったな。17歳の時、下士官付きをしていて、身近にいた病気の兵隊に自分が手に入れた食べ物をこっそり分けてあげたことがあってね。そしたら、そのことが漏れて、軍服のバンド(ベルト)を盗まれて、「天皇陛下の下賜のバンドを失くすとはなにごとだ!!」と10人がかりで殴られてね。1ヶ月間歩けなかった。地獄だった。17歳だったから生きられたけれど、20歳だったら死んでたね。幸せだったのは、30代ぐらいのことかな。町内で、「なかよし会」というのを作って、60カ所くらい親睦旅行に行った。老若男女 200人くらいもい

たから、バス5台で旅館は2つに分かれて泊まった。和気あいあいだね。町内で助け合って、自分自身もその中に入って、楽しかったなあ。今後の夢？

僕は、人が互いに助け合う、海がものすごくきれいな村に育ったから、人間が人間をいじめることが本当に腹が立つ。こういう時代だから、人が助け合っ

て絆を大切にしようになっていってほしい。(聞き手 山田珠実)



人間、死んでも、言うたことと、したことは残る。

だから、言い伝えていかなあかんのや。(吉田サヨ子さん 88歳)

この帽子とかばん、カーテンの布で私が作った。あるもので何でも作る。昔はそうやった。青春時代は、戦争で食べるものがなかった。親が着物を売って、「闇」のものを買って食いつないだ。今は、お金出したら何でも食べられる。冷蔵庫開けたらバナナもプリンも入ってる。これが当たり前。こんな結構な時代ないわ。幸せなんて、若いときはわからへん。戦争になってみな、わからへん。お金で買えへんものを大事にせなあかん。水、空気、自然、親、兄妹、命。土地がなかったら、畑も家も出来ひんやろ？

何ひとつとっても、人間の力ではない。私、ウォークマン聞いて歩いてる若い人に言うんや。「そんなん聞かんと周りの人見たら勉強になるで。世の中にはいい人と悪い人と半分ずつおる。人を見るだけでも勉強や。」って。食べ過ぎたり喋りすぎたら、疲れるやろ？自分のしてることは自分にサインが送られてきている。胸に手をあてて、考えたらええ。人間、自分に合うものさして動くんが大事なんや。(聞き手 細見佳代)

